

# 一般国道393号 赤井川道路 全線開通



国土交通省  
北海道開発局  
小樽開発建設部 道路課  
課長 玉木 博之

## 事業概要

一般国道393号は、小樽市を起点とし、赤井川村を経て倶知安町に至る延長約60kmの幹線道路です。

赤井川道路は、一般国道393号のうち、平成20年9月6日に開通した、赤井川村字轟～倶知安町字大和間の通行不能区間9.7kmを含む、全長16.4kmの道路事業です。

赤井川道路は、昭和57年4月に道道小樽仁木線の一部と道道倶知安赤井川線が一般国道393号として国道昇格し、翌年の昭和58年度より当該事業区間の調査設計を進め、昭和61年度より用地取得及び工事に着手しました。この度、開通した9.7kmの区間は山間部に位置しているため、橋梁やトンネルなどの構造物が多いことや、地すべり対策等の理由により、年月を要しましたが、平成20年9月6日に全線開通を迎えることができました。



開通式（テープカット）



## 工事の特色

赤井川道路は、羊蹄山やニセコ連峰を望む雄大な山岳景観の中を通過する道路であるため、地域固有の自然環境の保全を意識した取り組みを行ってきました。工事に伴い発生したスキ取り物や樹木の伐採物を再利用し、自生種により切土法面、盛土法面を緑化させる工法の採用や、自然景観に溶け込んだ道路として、道路付属物に自然保護色を採用し整備を進めてきました。コストの面では、路盤材として現地発生材を活用し、補強土壁工法の活用により橋梁延長の短縮を行う等、コスト削減に取り組んでいます。また、事業区間付近には余市川の支流があるため、工事中に発生する濁水については、河川に流れ込んで自然環境に影響を与えないよう濁水処理を行うなど、特段の注意を払って工事を進めました。

赤井川村と倶知安町にまたがって位置する樺立トンネルから倶知安町大和に至る未開通区間は、地すべりが多く認められる地域を通過するルートであったため、工事は難航を余儀なくされましたが、集水井をはじめとした地すべり対策などを講じ、工事を進めてまいりました。

これらの自然環境対策や地すべり対策工を行い、約20年の月日を経て、平成20年9月6日に「赤井川道路」の全線開通を迎えております。

## 期待される効果

赤井川道路の全線開通により、一般国道393号は、小樽市、赤井川村及び倶知安町を結ぶ新しいルートができたことで、周辺の観光地では新たな周遊観光ルートとして期待されています。

開通直後の3連休に、赤井川村のキロロで開催されたイベントでは、天候にも恵まれたこともあり、例年より約5割多い2万人を超える入り込みがあったと聞きました。

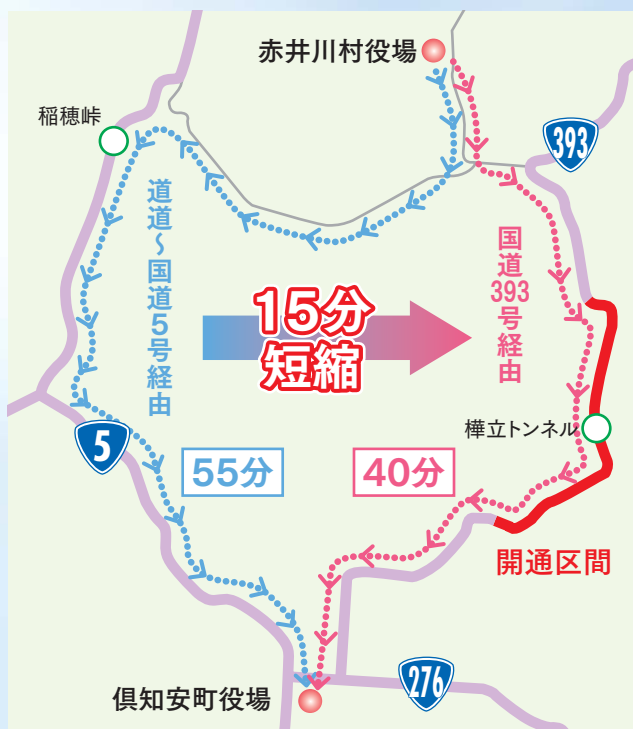
また、赤井川村では、高速料金の値下げに合わせて、地域振興策として村内の4施設の割引が得られるクーポン券を配布し、9月20日～10月いっぱい期間中、2つの施設では、2割から3割の利用客増が図られたとのことです。その他12月上旬より、小樽市、赤井川村キロロ及び倶知安町ニセコヒラフ地区を結ぶチャーターバスが企画されており、世界屈指のパウダース



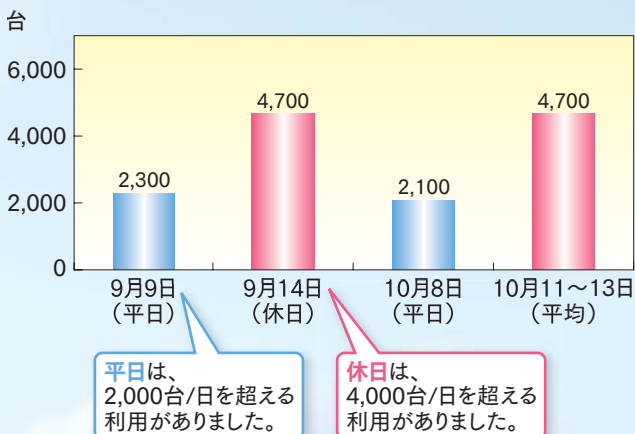
紅葉シーズンの風景



倶知安側路側駐車場からの眺め



赤井川村役場～倶知安町役場の所要時間 (H17道路交通センサスより算出)



今回開通した区間の1日の交通量

ノーを求め訪れる道内外からの観光客を迎える準備もされています。

9月6日の開通直後の交通量は、約4,700台/日の利用がありました。概ね一週間後の平日で約2,300台/日、休日で約4,700台/日の利用があり、概ね一月後の平日で約2,100台/日、休日3連休の平均で約4,700台/日の利用がありました。紅葉シーズンとも重なり羊蹄山とニセコ連峰を同時に眺めることができる倶知安側路側駐車場では、カメラを片手に休憩を取る幅広い年齢層の方々が見られました。

「今日はたまたまお話しさせていただき機会をいただきましたが、約20年の歳月をかけた道路であり、多くの方の尽力の賜物。私もその工事の一部に携わらせていただきました」と、感慨深げな玉木課長。地域住民からは「病院へ行くのに便利になった」「走りやすく助かる」などという、喜びの声が寄せられています。また、倶知安側に羊蹄山やニセコ連峰の大パノラマが楽しめる絶景スポットの駐車場があり、今後人気を呼びそうです。